

Meijo University Environmental Report 2020

名城大学 環境報告書 2020



理念

[立学の精神]

穏健中正で実行力に富み、
国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

立学の精神、そのなかに含まれる、「穏」「健」「中」「正」、この4文字の意味するところを身につけることができれば、広く社会の人々から信頼をうけることができるのではないか。そして、この4文字の意味を体して、力強く、実践を積み重ねるとき、きっと個人の生涯は大きくその門を開くだろう。



平和であたたかく、
穏やかであること。



秩序と調和と
確実さをもって、
支障なく、
力強く前進すること。



謙虚にものごとの
核心をつかみ、
包容力ある
立場にあること。



ものごとに、折り目、
けじめをつけ、
順逆をわきまえて
筋を通すこと。

共有する価値観 (VALUE)

生涯学びを楽しむ
(Enjoy Learning for Life)

すべての学生・生徒が本学の教育によって「学ぶ楽しさ」に気づき、卒業・修了後も、それぞれの多様なコミュニティの中で、様々な人や文化と出会い、人生を楽しみながら生涯学び続けていくことを、共有する価値観と決めました。また、この価値観には、学生・生徒だけではなく、教職員も「学ぶ楽しさ」「教える楽しさ」「仕事の楽しさ」を実感し、有意義な日々を送ってほしいという意味も含まれています。

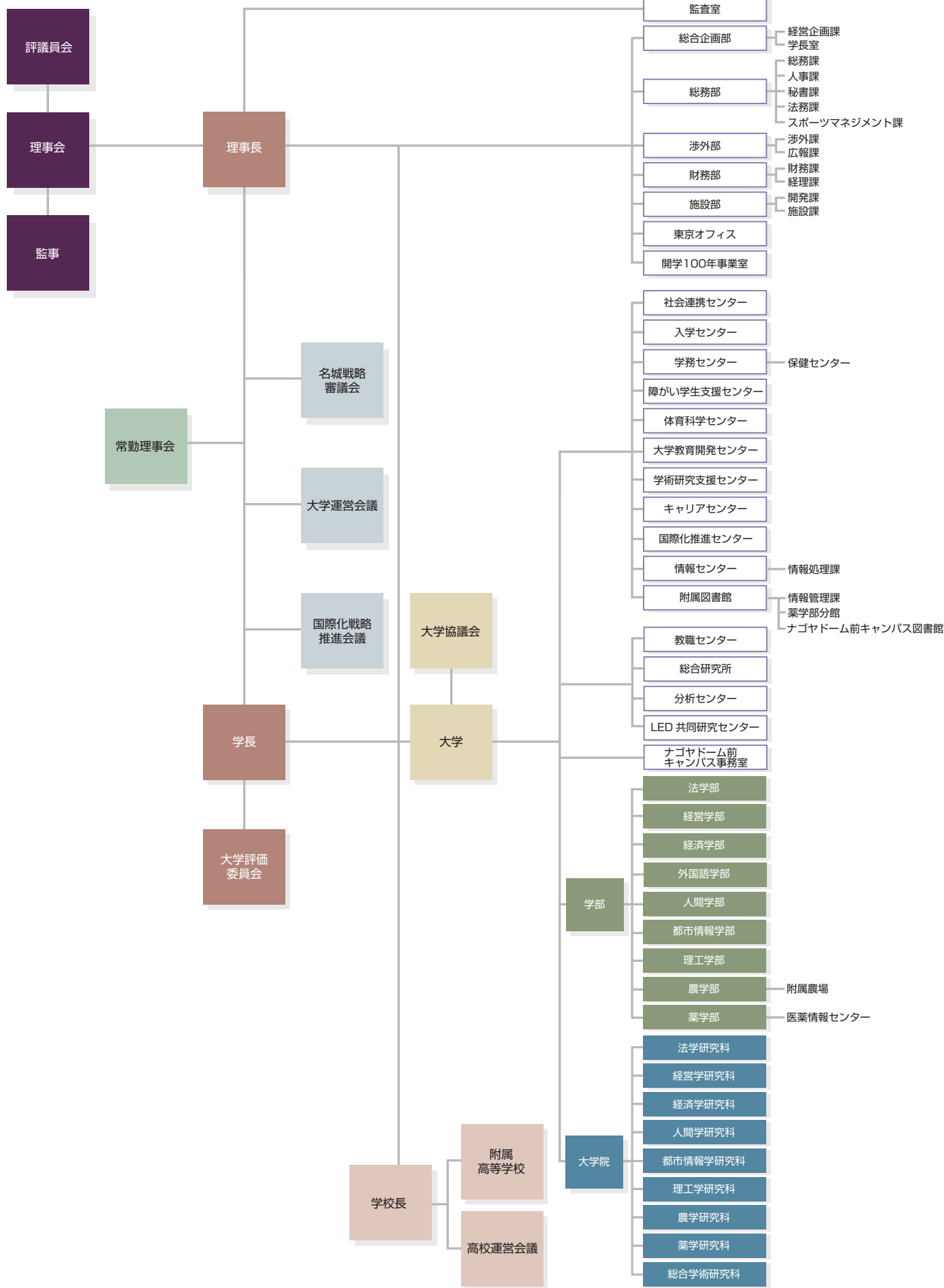
基本戦略

MS-26

本学では、2015年度から、開学100周年にあたる2026年を目標年とする新たな戦略プラン「Meijyo Strategy-2026」【通称：MS-26】を推進しています。2026年は、本法人の礎となる「名古屋高等理工科講習所」の開設から100年という節目の年になります。MS-26に掲げるビジョンは、本学の志であり、学生・生徒が卒業・修了後に本学を卒業・修了して良かったと思える大学・大学院・高等学校づくりをめざします。

組織機構図

2020年8月1日時点



環境への取り組み

環境方針

環境理念

名城大学及び名城大学附属高等学校は、環境基本法を始めとする環境法令を順守し、社会から要請される「持続的に発展可能な社会の形成」に応えられる人材の育成と研究に努めます。

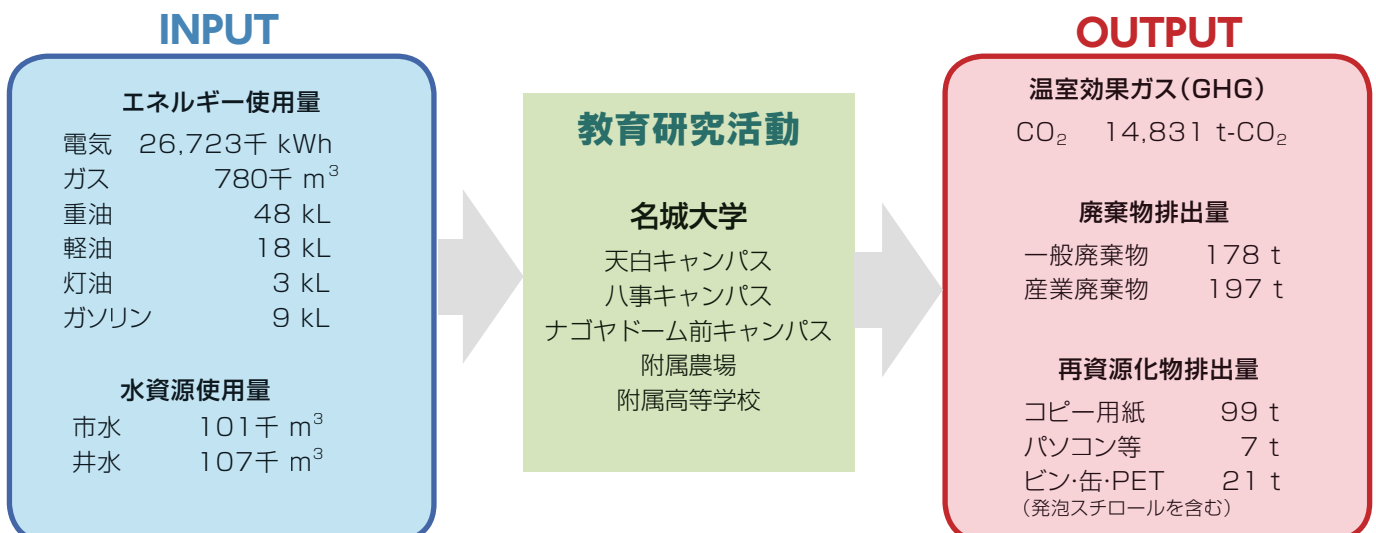
環境方針

1. 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
2. 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
4. 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
5. 環境方針を達成するため、名城大学が独自に策定した環境マネジメントシステム (Meijo-EMS) を構築・運用します。
6. 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムを含む環境保全活動の継続的な改善を図ります。
7. 環境方針は本学のホームページで公開します。

2020年4月1日 名城大学 学長 小原 章裕

マテリアルバランス

本学の各キャンパスで使用・消費されるエネルギー、資源、及び廃棄物などについて、データを集計し環境配慮活動の基礎データとして、環境負荷の低減に努めています。2019年度の教育研究活動に伴って生じた環境負荷の状況は次の通りです。



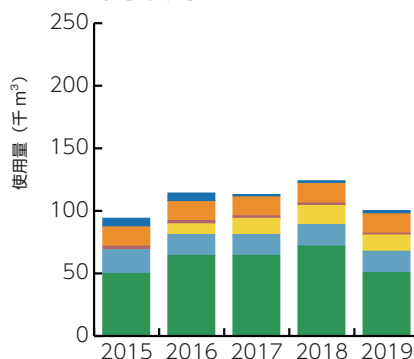
省資源の推進

水資源の管理

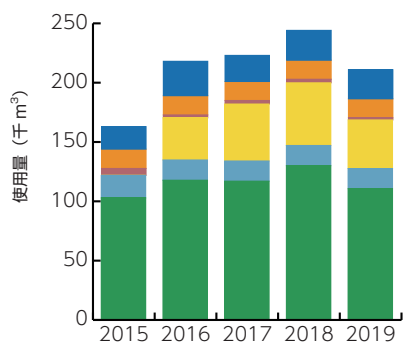
水道の蛇口を捻れば、透明な水が出てくるのが当たり前でその価値は薄くなっています。また、浄水器を通した水やミネラルウォーターなどを飲む人が増えており、水道水をそのまま飲んでいる人の割合は50%以下となっています。

本学では、積極的な雨水の利用、漏水の随時監視、節水コマの導入、井水の利用により、市水の節約に努めています。水資源の使用量の推移は、次の通りです。

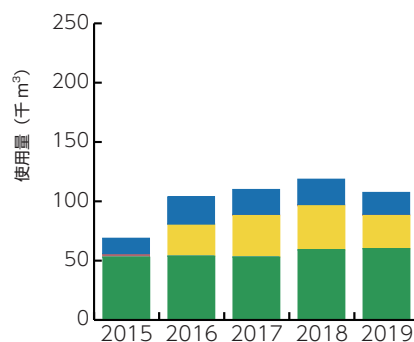
市水使用量



水資源(市水+井水)使用量



井水使用量



■ 天白キャンパス
 ■ 八事キャンパス
 ■ ナゴヤドーム前キャンパス
 ■ 附属農場
 ■ 附属高等学校
 ■ その他*

*その他は、可児キャンパス(旧)、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

陸前高田市図書館再建プロジェクト「Book-aid」

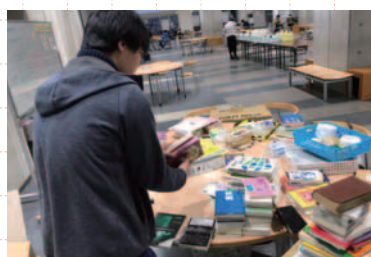
陸前高田市図書館再建プロジェクト「Book-aid」を実施しました。この活動は天白キャンパスで古本を回収し寄贈することで陸前高田市の図書館を再建することを目的としています。本のリユースだけでなく、現地にて植樹や草刈りなどのボランティア活動も行っています。その他、NPO 法人から講師を招待し講演会を実施しました。



古本回収箱



植樹をする学生



仕分けをする学生



講演会の様子

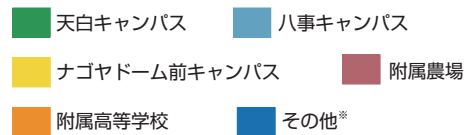
環境への取り組み

省エネルギーの推進

エネルギー使用量

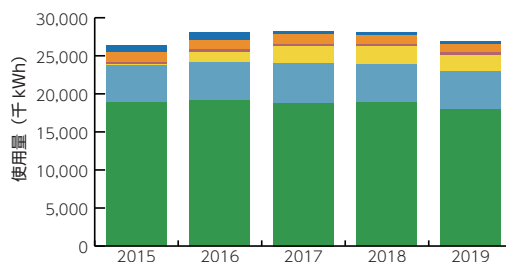
エネルギーの使用量は、3つのキャンパス、附属農場、総合グラウンド、附属高等学校及び関連施設を合わせて、原油換算値で約 8,000kL と横這いとなっています。本学における省エネ活動は、エネルギー管理部署の管理に委ねられている関係で、各教室、研究・実験室での細かな対応が難しい状況です。

今後は、各教室、研究・実験室での細かな運用方法を検討し、省エネ活動を推進していきます。

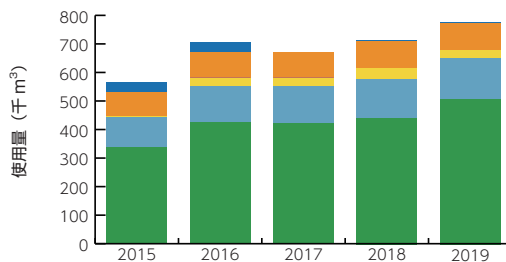


※その他は、可児キャンパス（旧）、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

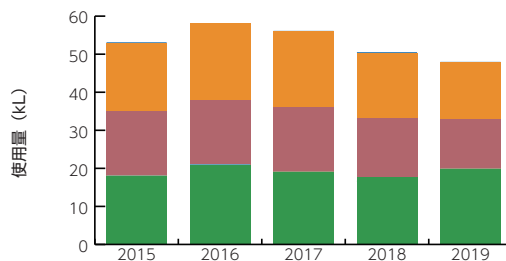
電気使用量



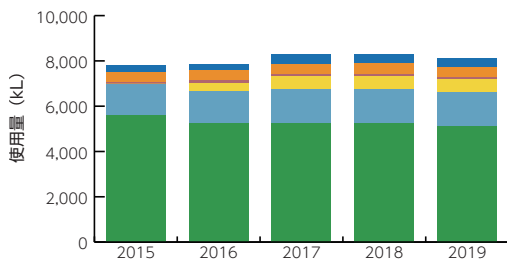
都市ガス使用量



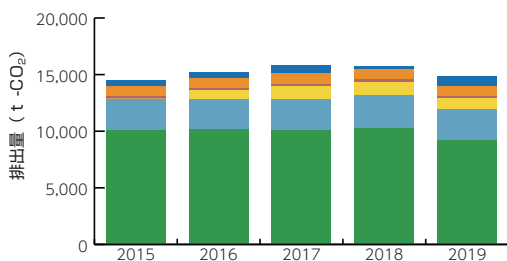
重油使用量



総エネルギー使用量



CO₂排出量



打ち水大作戦 in 名城

天白キャンパス共通講義棟南館の東側で、環境学生ワーキンググループによる「打ち水大作戦 in 名城」が開催されました。この活動は地球温暖化対策の一環として2011年から毎年実施されています。使用する水は雨水

と地下水で合計 2 トンほどです。残念ながら 2019 年は雨天のため中止となりましたが、例年 1.5 ~ 2℃気温が下がり、参加した学生からは「効果が出てやりがいがある」等感想が寄せられます。



打ち水をする学生



打ち水をする学生



2019年集合写真

廃棄物の適正管理

廃棄物の取り組み

一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量は、毎年おおむね 150t/年でしたが、2017 年度は可児キャンパスの移転に伴い、産業廃棄物は約 300t 増加しました。有用な備品等は譲渡し、できる限り分別をしました。

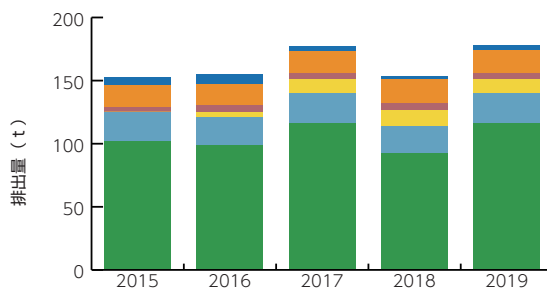
2016 年度まで産業廃棄物として処分していた O A 機器・計測機器等については、2017 年度から分別回収を強化しており、2019 年は約 7t の不要品を有価物として処分することができました。

大学祭においても、大学祭実行委員によって適切に分別回収を行いました。

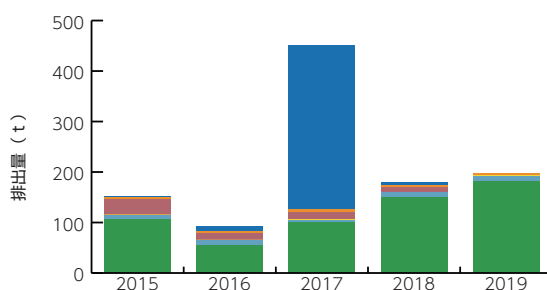


屋内の回収ボックス

一般廃棄物排出量



産業廃棄物排出量



- 天白キャンパス
- 八事キャンパス
- ナゴヤドーム前キャンパス
- 附属農場
- 附属高等学校
- その他*

*その他は、可児キャンパス(旧)、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

地域の清掃活動

ボランティア協議会はクリーンアップ大作戦と称し、毎月地域の清掃活動を実施しています。大学祭後は、ボランティア協議会と大学祭実行委員会の共催で大規模なクリーンアップ活動を実施しました。その他、名古屋市が企画する清掃活動にも参加しています。



清掃活動の様子



清掃活動の様子



清掃活動の様子

環境への取り組み

法令遵守

環境関連法令ならびに県及び市条例等を遵守するに当たり、本学に関連する法の要求事項を適宜確認し、環境負荷の低減に努めています。本学では、下記の環境関連法令等を遵守しています。

順守している環境関連法令等

環境一般

環境基本法
環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律

地球環境

地球温暖化対策の推進に関する法律 エネルギーの使用の合理化等に関する法律
建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律

廃棄物・リサイクル

循環型社会形成推進基本法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 資源の有効な利用の促進に関する法律
特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律（バーゼル法） 特定家庭用機器再商品化法
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

公害防止・安全衛生

大気汚染防止法 騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法
(自動車 NOx・PM 法)
水質汚濁防止法 下水道法 浄化槽法 土壌汚染対策法 工業用水法 水道法
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 毒物及び劇物取締法 ダイオキシン類対策特別措置法
化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 消防法 放射性物質汚染対処法
農薬取締法 高圧ガス保安法 ビル管理法 作業環境測定法
労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則 有機溶剤中毒予防規則
事務所衛生基準規則 ボイラー及び圧力容器安全規則 化学物質管理促進法 (SDS)
公害健康被害補償法

条例等

愛知県条例（環境基本条例、廃棄物の適正な処理の促進に関する条例など）
名古屋市・春日井市・日進市条例（廃棄物の減量及び適正処理に関する条例など）
水循環基本法、麻薬及び向精神薬取締法

環境保全・環境教育

本学の環境保全・環境教育に関する主な取り組みは、下表の通りです。

| 学部等 | 研究テーマ | ホームページリンク先 |
|----------------------|--|---|
| 大学教育開発センター 入学センター | 各教員が対応するテーマの中で環境保全や環境問題のテーマにも高校生、一般向けの出前講義を希望に応じて実施しています。 | https://www.meijo-u.ac.jp/social/contribution/ |
| 経済学部 | 東アジアの持続可能な発展に向けたエネルギー環境政策のグリーン改革の方向性に関する研究 / 東アジアの原子力発電政策と原子力安全規制制度に関する研究 / 日本の温室効果ガス削減における 2030 年 NDC 目標及び 2050 年 80% 目標達成に向けた炭素税制改革に関する研究 / 東アジアの持続可能な低炭素社会に向けた低炭素技術革新とエネルギー転換に関する研究を行っています。 | http://www.profile-ac.jp/lee/index.html |
| 理工学部 | 建設資材のリサイクルシステムに関する研究 / 水域生態系に関する研究 / 大気-地表水-地下水連成数値解析モデルの開発 / 大気微量成分の動態解析に関する研究 / 新生代の地球・地域環境の変遷に関する研究 / 水域水質の浄化に関する研究 / 衛星による降水観測に関する研究 / 人間-環境系に関する研究 / 社会基盤施設の維持管理に関する研究 / 環境に配慮したエネルギー変換に関する研究等の研究を行っています。 | http://env.meijo-u.ac.jp/index.htm |
| 農学部 | 植物多様性の保全・維持・復元に貢献することを目的として、最新の研究手法を駆使して遺伝子から景観の各レベルで野生植物の生態や環境応答などについて研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo15/index.html |
| | 陸地から海洋までの幅広い自然環境をフィールドにして、そこに生息する様々な野生動物の生態・行動・生理の解明を通して、生物多様性をいかに保全していくべきかの研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo16/index.html |
| | 大気、土壌、水といった身の回りの環境中に存在する有害化学物質を様々な機器を用いて分析・評価を行い、また、バイオマスを有効利用した環境低負荷型材料の新規創製の研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo17/index.html |
| | 環境負荷の軽減に配慮した農業技術の開発に資するため、土壌及び作物における養分元素、重金属、農薬の動態を明らかにし、また、植物共生微生物を活用することを指向した研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo18/index.html |
| | 植物の強光、高温、乾燥など様々な環境環境ストレスに対する適応機構を生理・生化学的に解析する研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo19/index.html |
| | 「微生物が創る夢の世界」の実現をめざして、微生物が持つ力を借りて、様々な環境問題を科学的に解決する研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo20/index.html |
| | 庭園から都市緑地、都市周辺の里山あるいは地球環境までの幅広い環境を対象にして、人の生活する外空間をよりよいものにするための研究を行っています。 | http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo21/index.html |
| 薬学部 | 水環境で異常発生するラン藻類制御のための化学生態学的アプローチを行っています。 | http://www-yaku.meijo-u.ac.jp/kenkyu/environmenta/ |

環境への取り組み

環境科目一覧

本学では、下記の環境関連の科目を設定し、将来を担う学生のために環境教育を行っています。2019年度に開講された各学部の科目は、次の通りです。

理工学部

| | |
|-------------|-------------|
| 化学Ⅱ | 環境文化論 |
| 技術者倫理 | 都市環境設計 |
| 先端化学 | 環境アセスメント |
| 安全工学 | 材料リサイクル |
| 環境材料 | 環境法 |
| 自然環境再生論 | 快適性創造学 |
| 地圏環境工学 | 環境創造学概論Ⅱ |
| 水域環境工学 | 環境デザイン図法 |
| 環境材料学 | 熱・光環境論 |
| 環境創造学概論Ⅰ | 水環境学 |
| 環境造形学 | 環境変遷学 |
| 地域環境調査実習Ⅰ・Ⅱ | 環境創造学実験 |
| 地圏環境学 | 水域環境創造学 |
| 居住環境設計Ⅰ・Ⅱ | 環境リモートセンシング |
| 気圏環境学 | 建築環境工学 |
| 環境共生都市論 | 建築環境物理 |
| 環境倫理 | 都市環境デザイン |
| 環境計測学 | 建築環境概論 |
| 交通環境工学 | 建築環境計画Ⅰ |
| 環境気象学 | 建築環境実験 |
| 環境生態学 | 環境分析化学 |
| 環境創造設備学 | |

農学部

| | |
|----------------|------------|
| 生命・食料・環境・エネルギー | 公衆衛生学 |
| 生物資源学概説 | 生物制御化学Ⅰ |
| 園芸学 | 生物環境科学概説 |
| 食用作物学Ⅰ・Ⅱ | 環境基礎理論 |
| 基礎昆虫学 | 生態学 |
| 応用昆虫学 | 保全植物学 |
| 生物資源学実験 | 環境動物学 |
| 遺伝育種学実験 | 緑地環境学 |
| 植物病理学実験 | 物質循環論 |
| 昆虫学実験 | 環境分析化学 |
| 動物分類・形態学 | 水圏環境化学 |
| 資源作物学 | 環境微生物学 |
| 熱帯農業論 | 動物環境生理学 |
| 農業環境微生物学 | 野生動物管理論 |
| 応用生物化学概説 | 環境アセス論 |
| 食品安全・衛生学 | 植物機能科学 |
| 食品化学 | 植物環境適応論 |
| 食品・環境関連法規 | 生物環境科学特別講義 |

薬学部

衛生化学Ⅰ
衛生化学Ⅱ
感染予防学
公衆衛生学
環境科学
人間と環境

法学部

環境法

経営学部

環境経営論
環境経済論
人間と環境

経済学部

環境経済論
環境ビジネス論
人間と環境

人間学部

環境人間学
環境社会学

外国語学部

人間と自然

都市情報学部

都市のデザイン
水利用の計画
水環境とまちづくり
都市の環境
環境の政策
環境の評価
都市と生態環境
地域環境の保全
人間と環境

「環境報告ガイドライン(2012年版)」との対照表

本報告書は、環境省発行の「環境報告ガイドライン(2012年版)」に基づき作成しています。ガイドライン項目と記載ページの一覧を下表に示します。

| 記載する情報・指標 | 記載ページ |
|-------------------------------|-------|
| 基本的事項 | |
| 1. 報告にあたっての基本的要件 | |
| (1) 対象組織の範囲・対象期間 | 10 |
| (2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異 | — |
| (3) 報告方針 | — |
| (4) 公表媒体の方針等 | 10 |
| 2. 経営責任者の緒言 | |
| — | |
| 3. 環境報告の概要 | |
| (1) 環境配慮経営等の概要 | 1～2 |
| (2) KPIの時系列一覧 | 3～6 |
| (3) 個別の環境課題に関する対応総括 | — |
| 4. マテリアルバランス | |
| 3 | |
| 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況 | |
| 1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等 | |
| (1) 環境配慮の方針 | 3 |
| (2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等 | 1 |
| 2. 組織体制及びガバナンスの状況 | |
| (1) 環境配慮経営の組織体制等 | 2 |
| (2) 環境リスクマネジメント体制 | — |
| (3) 環境に関する規制等の遵守状況 | 7 |
| 3. ステークホルダーへの対応の状況 | |
| (1) ステークホルダーへの対応 | — |
| (2) 環境に関する社会貢献活動等 | — |
| 4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況 | |
| (1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等 | — |
| (2) グリーン購入・調達 | — |
| (3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等 | 8,9 |
| (4) 環境関連の新技术・研究開発 | 8,9 |
| (5) 環境に配慮した輸送 | — |
| (6) 環境に配慮した資源・不動産開発 / 投資等 | — |
| (7) 環境に配慮した廃棄物処理 / リサイクル | 6 |

| 記載する情報・指標 | 記載ページ |
|------------------------------------|-------|
| 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況 | |
| 1. 資源・エネルギーの投入状況 | |
| (1) 総エネルギー投入量及びその低減対策 | 3,5 |
| (2) 総物質投入量及びその低減対策 | 3,5 |
| (3) 水資源投入量及びその低減対策 | 3,4 |
| 2. 資源等の循環的利用の状況 | |
| 6 | |
| 3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況 | |
| (1) 総製品生産量又は総商品販売量等 | — |
| (2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策 | 3,5 |
| (3) 総排水量及びその低減対策 | — |
| (4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策 | — |
| (5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策 | — |
| (6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策 | 6 |
| (7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策 | — |
| 4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況 | |
| — | |
| 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況 | |
| 1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況 | |
| (1) 事業者における経済的側面の状況 | — |
| (2) 社会における経済的側面の状況 | — |
| 2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況 | |
| — | |
| その他の記載事項等 | |
| 1. 後発事象等 | |
| — | |
| 2. 環境情報の第三者審査等 | |
| — | |

報告対象期間:

2019年(平成31年)4月～2020年(令和2年)3月

※一部、対象期間外の活動を含みます。

報告対象組織:

名城大学全キャンパス

発行年月:

2021年(令和3年)3月

公表方法:

名城大学ホームページにて公表

<https://www.meijo-u.ac.jp/about/action/environment.html>

名城大学

学校法人 名城大学

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

TEL : 052-832-1151 (代表)

URL : <http://www.meijo-u.ac.jp/>

E-Mail : ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp